

## 2024年度 第1回 研究会 「実践をひらく」

金沢大学では文部科学省の「日本語教師養成・研修推進拠点整備事業」を受託しました。その一環として、金沢大学、北陸大学、金沢学院大学で連携し、現役の日本語教師と学生が、教育、研究について議論できる場をつくりたいと考え、定期的に研究会を実施することとしました。今回は第1回として「実践をひらく」というテーマで、お互いの経験を共有し、意見交換ができればと考えています。日本語教育にご興味をお持ちの方なら、どなたでもご参加いただけます。

### プログラム

#### 1. 趣旨説明

#### 2. 日本語教育実践を研究し共有することの意味 市嶋 典子（金沢大学）

日本語教育において実践のあり方は、移りゆく時代の流れとともに変化してきました。その変化に伴い、実践を研究することの意義も変容してきました。本発表では、日本語教育において、実践を扱った研究が、いかなる社会的文脈のもとで行われ、どのような意義が付与されてきたのかを検討した上で、日本語教育実践を共有することの意味を示します。

#### 3. 共生のための社会につながる日本語活動 横田 隆志（北陸大学）

日本での日本語教育は第二言語としての日本語教育です。教室外の社会ではさまざまな日本語が使われています。しかしながら「閉じられた空間」である「教室」で教師と学習者による日本語教育が行われているケースが多いと思います。

社会とことばの教育は切り離されるものではなく、日本語教育の活動を社会とのかかわりで考える必要があります。そこで、学習者が教室を飛び出して、教室と社会をつなぐ日本語活動を行いました。また、この活動では、学習者が社会につながるだけでなく、教室外の人々がさまざまな形で留学生とかわかり、新しい観点を発見することができました。このような日本社会の共生にもつながるような日本語活動の実践を報告します。

#### 4. ディスカッション

日時 2024年6月29日（土）14:00～16:00

開催形態 対面 及び オンライン（Zoom）

会場(対面) 金沢大学 人間社会第1 講義棟 206講義室（2階）

\*北鉄バスでお越しになる場合は「金沢大学」でお降りください。

\*お車でお越しになる場合は、P駐車場またはC駐車場をご利用ください。

申込み

Google form

<https://forms.gle/9GzFHUkiKJcUcqz68>

右のQRコードを読み取るか、  
URLからアクセスしてください。

申込〆切：6/26(水)



お問合せ

事務局 高島智美（金沢大学 人間社会研究域 国際学系）  
t-takabatake@staff.kanazawa-u.ac.jp



文部科学省

文部科学省 令和6年度  
日本語教師養成・研修  
推進拠点整備事業

主催



金沢大学  
KANAZAWA  
UNIVERSITY